

## ▶ S-KYT研修を受講して ◀

茨城県土浦市消防団 第四方面隊  
本部員 櫻井 俊彰

土浦市消防団は、1本部5方面隊38個分団と団本部付の女性消防部、ラップ隊で構成されています。中心市街地は行政機関が多く、茨城県南地区では高等学校が多く立地しており、人口は約14万人在住している都市となっています。

地域の特色といいますと、市街地の中心には中高層建物が多く建ち並び、郊外には国内第2位の面積を誇る霞ヶ浦があり、山沿いには筑波山に連なる宝篋山<sup>ほうきょうざん</sup>、朝日峠といった多様な自然が広がっているのが特色となっています。この一帯を水郷筑波国定公園と定められています。

土浦市消防団の主な活動は、毎月2回の管内一斉警戒、林野火災中継訓練、水防訓練、地域住民参加の防災訓練などが挙げられます。この他、全国津々浦々から約80万人ものお客様が訪れる、日本三大花火大会の土浦全国花火競技会の災害警戒及び出場待機なども行われます。

近年では大規模災害に対応できるよう、消防団と消防本部が相互通信できる無線機の整備や団員の安全装備の充実がすすめられています。

今回は、時代に合わせた多様な消防団活動における公務災害防止の観点から、土浦市消防本部にお世話になり、消防団員等公務災害補償等共済基金のS-KYT研修を企画していただきました。

研修は、講義と実技を織り交ぜたもので、最初に概要と狙い、消防団員安全教育、危険要因のと

らえ方と表現の仕方などの講義を受け、実技では「タッチ&コールで正しく確認」で、指差し確認で声に出すこと、それが耳に入ることによって潜在的な意識になることを学びました。これらの研修を私なりにまとめ、皆様にどのような研修であったかを説明させていただきます。

この研修は、「状況把握」「本質追及」「対策樹立」「目標設定」の段階をつけて話し合う4ラウンド法で答えを導きます。



簡単な消火活動のイラスト図から想像して、

1. 現状把握…どのような危険が潜んでいるか、自由に可能性を指摘する、他のメンバーの指摘内容を批判するようなことは避ける。(量を出し合う)
2. 本質追究…指摘内容が一通り出揃ったところで、その問題点の原因などについて皆で検討、整理する。(質の高いものに絞り込む)
3. 対策樹立…整理した問題点について、改善策、解決策などを提起しあう。(量を出し合う)
4. 目標設定…あがった解決策などを皆で討議、合意の上、まとめる。(質の高いものに絞り込む)

以前、別の機会でブレイン・ストーミング講習を受ける機会があり、批判禁止、自由奔放、大量生産、便乗発展がルールでした。S-KYTはこの集団思考法がヒントにされているとの事です。



難しい討論はなく、次々と意見を出し合うことにより短時間で答えが導き出されました。批判されない事で意見が意見を呼び、一人ひとりの意見が、合意された目標に関連があり、グループの一体感と達成感が得られました。

講義の冒頭で公務による年間の負傷者数は平均1,300人を超えて毎年横ばいで推移しており、災害現場よりも訓練中の事故やケガが多く発生している事を知りました。

このような危険予知訓練を定期的に行ううちに、作業をただ流すだけでなく、常に、何か危険は潜んでいないかと、団員に考える習慣を持ってもらう事で、重傷災害に結び付く無傷災害ヒヤリハットを無くしてゆくことが大切だと思いました。

これからの消防団活動において、S-KYTの有効活用で団員間の意思疎通を促すとともに、一つとして同じ条件、対応がない多様な災害現場の安全を確保できる様に努めて参ります。

